

平成28年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

9

福岡県立小倉南高等学校長

(No.1)

学校運営計画				評価			
学校運営方針		志をもって意欲的、協働的に学び、自律心と思いやりの心を持ち、社会の変化に対応して、積極的に社会を支え、発展に寄与できる逞しい生徒を「鍛え、ほめ、伸ばす」ことで育成する。		B			
昨年度の成果と課題		本年度重点目標					
昨年度より部課長制の新たな運営組織のもと、部長・課長を核とした系統的・組織的な校務運営を図ることで、統一的でありながらも実効性と継続性を持つ教育活動を展開することができつつある。 本年度は創立111年目を迎え、新たな一歩を踏み出すに当たり、全日制普通科高校として「学力」「体力」「豊かな心」の育成に努め、生徒一人一人の自己実現・進路実現の夢に確実に応えることのできる進学校を堅持することを最重点課題とする。	学力の向上に努め、自主的・協働的な学習態度を育成する。		具体的目標 授業時数の確保とともに ICT 機器の活用によるアクティブラーニング型授業の積極的な推進等、指導方法の工夫に努め、「学力の向上」及び「学びの深化」を図る。 一年次：特進クラス、二年次：希望進路別類型の設置を生かした授業内容・展開の工夫に努め、進路実現につながる進学体制の充実を図る。 校内研修会の充実を図り、生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導を行うことのできる教科指導力の向上を図る。				
	部課長制の運営組織に基づく系統的組織的な校務運営の充実を図る。		校務の統一性を図り、実効性と継続性のある教育活動を展開するとともに、迅速で的確な検証、分析をもとにした教育活動の改善を目指す。				
	進路目標達成に向けての組織的指導体制の強化と指導内容・方法の改善・充実に努める。		進路意識の早期確立と意欲の向上を図るとともに、長期休業中における各種学習会、進学セミナーの実施等、進路目標達成のために効果的な課外授業を実践する。				
	生徒会や生徒が主体的、協働的に取り組む学校行事の推進および充実に努める。		創立110周年行事等で育成された「南高 PRIDE」が継承され、何事にも主体的・協働的に取り組む態度を育成する。				
	人権・同和教育を推進すると共に学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。		いじめ、暴力、差別は絶対に許さない心の教育・人権意識と人間尊重の精神を涵養する。				
部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	
教務	・自宅学習時間 (1日平均) 1年：120分 2年：140分 3年：160分	・教科指導の充実と学力の向上を目指す。	1学年特別進学クラスを設置し、理解度に合わせた学力の伸長を達成するために、それぞれのクラスでより効果的な教育活動を展開する。	A	A	・1学年特別進学クラスの設置により効果的な教育活動が展開できた一方で、中学校までとは違う授業スピードや課題量などに生徒が適応できるようにきめ細かい指導を行い、問題解決を図っていく。 ・志ある自主的学習態度を育成するために、生徒の学習意欲を喚起する授業の創造・改善を目指し、自己点検を怠らない。また、家庭での学習習慣の定着のためにライフレポートの効果的活用を推進する。	
			進路部と連携し、2学年及び3学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。	A			
	・出席率 1年：99.5% 2年：99.0% 3年：99.0% 全体：99.2%	・授業規律の確立に努める。	生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。	A			B
			教室の環境を整え、緊張感のある授業を展開する。	B			
部	・校内の円滑な行事運営に努める。	・各部、各課と連携し、校内の円滑な行事、儀式等の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案に努め、各部、各課との調整を図る。	A	A	・行事や儀式等が円滑に実施できるよう各部、各課と連携し、調整を行う。 ・保護者講演会やPTA総会の参加の増加を目指し、PTA総会の日程について保護者アンケートを実施することで、平成30年以降の日程の検討を行う。 ・2ヶ月分ごとの行事予定の早期配布に努め、各行事の周知徹底を図る。	
			月の行事予定表(細目)を毎月前月の中旬までに配付し、各行事の周知徹底を図る。	A			
	・PTA活動の活性化を図る。	・PTA活動を推進し、学校と家庭との相互理解を深める。	PTAとの連携を強化し、適切な運営とPTA活動の活性化に努める。	B			B
			学校要覧、学校案内、パンフレット等の内容の充実を図り、より効果的な広報活動を推進する。	A			

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価				
生徒	指導課	1. 基本的生活習慣標 ア 課外出席率 <u>98.0%</u> イ 授業出席率 <u>99.2%</u> 2. PTA合同「挨拶運動」 各学期毎3日間実施 3. 部活動目標 ア 加入率 <u>100%</u> イ 県大会 運動部 15 文化部 4 ウ 九州 3 エ 全国 1(以上延べ)	・基本的生活習慣の確立 校則・マナーの遵守 ・愛校心、帰属意識を高める	社会規範・校則遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。	A	A	・いじめの早期発見に向け、アンケートの更なる改善を行なう。 ・委員会活動を活性化させ、生徒自ら主体的に学校行事等に参加するように取り組む。 ・部活動集会等を定期的に行い、部と部の連携や活動が活発になるように切磋琢磨していく。		
				「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図り、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。	A				
				生活指導の徹底を図り、校則違反や特別指導の減少に努める。	A				
				職員、生徒、保護者が一体となって「挨拶運動」の取組を推進する。	A	B			
				学校行事のより一層の内容の充実に努めるとともに、学校行事を通じて本校に対する帰属意識を育成する。	A				
				挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会執行部及び部活動所属生徒の果たすべき役割を明確にし、活動の活性化を図る。	B				
	部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。	B							
	部健全課	・生徒及び職員の心身の健康維持増進。 ・委員会活動の活性化。 ・生徒情報の把握と円滑な生徒支援。	・保健室利用者数の把握 ・保健日より定期的発行 ・事務室と連携し校内施設の安全管理に努める。 ・美化意識の高揚に努める。ゴミ処理、減量の改善立案。施設の安全改修に努める。 ・教育相談活動を積極的に進める。生徒支援活動をより拡張して推進する。	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医との連携をとる。	B	A		・生徒の安全のために施設の点検や充実に努める。 ・清掃活動に関し、美化委員会を中心に掃除状況のチェックや意識を高めるための啓発活動を行なう。 ・生徒の多様性に対して情報の共有や指導方法の共通理解にしっかり取り組む。	
				保健日より毎月1回発行。生徒委員会活動を活性化させる。	A				
				月1回の大掃除を充実させる。大掃除は総合学習に位置づけられていることを確認し、美化意識高揚のための事業をより浸透させる。	B	B			
掃除監督の徹底を図り、生徒の美化意識の高揚に努める。				B					
ごみ減量と、清掃に関わる経費の削減を目指す。				B					
生徒支援に関わる情報を学年会議、職員会議、生徒特別支援チーム等を通して情報を共有、協議し、より良い生徒支援につなげる。				A	A				
保護者、専門機関との連携を推進し、生徒支援を充実させる。	A								
進路部	キャリア教育課	・一学年(1月進研)総合3教科 50以上120名以上 ・二学年(1月進研)総合3教科 50以上100名以上 ・三学年(進学結果)国公立大 80人以上 (AO・推薦 50人以上) (一般合格 30人以上) センター受験率 80% (二次受験 65%) 四年制大進学率 70%	・教科指導体制の確立 進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践 ・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導を実践し、四年制大学進学率70%の達成 ・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の確立	センター試験まで全員、理系5教科7科目、文系6教科7科目・3教科4科目による教科指導を継続する。	C	B	・今年度は教科を絞る傾向が見られた。希望進路達成を目指すためには文系・理系とも5教科の実力養成と、全国を視野に入れた進路目標の設定を目指す。 ・模試結果・進路結果などの進路情報の公開は生徒の学習に対する意識向上に貢献した。 ・課外及び土曜講座については予定通り実施された。来年度はさらなる充実を目指す。 ・キャリア教育・進路説明会については実施内容の改善とともに、効果をあげた。より効果を上げるために、事前・事後の活動を含めた日常的なキャリア教育の活動の充実を目指す。		
				外部模試・実力考査の成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。	A				
				長期休業中の課外及び土曜講座の年間実施日数は長期休業中課外(25日～28日間)、土曜講座(月2回程度)を確保する。	A				
				夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。	A				
				課外、土曜講座の出欠統計の上位クラスを毎月5日までに掲示し、出席率の向上を図る。	B				
				大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を1学年5回、2学年3回、3学年3回を実施する。	A				
	2・3学年保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	B	B						
	情報課	・ホームページ更新 ・職員研修 ・情報機器の点検 ・図書館の活性化		・ホームページを月1回以上の頻度で更新する。 ・年間2回以上の情報研修会を実施する。 ・学期に1度は情報機器の点検を実施する。 ・年間読書数 6,000冊	ホームページの更新を月に1回は行い、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活発化する。	A		A	・ホームページについては、実施された行事の報告だけでなく、行事の案内についても適切な時期にUPするよう心がけたい。 ・来年度も電子黒板が導入されるので、校内研修を実施し、積極的な活用を目指していきたい。 ・年間貸出冊数の目標値については、本校にあった数値を設定し、図書館の利用を生徒に促し、貸出冊数の増加を目指したい。
					職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。	A			
					情報機器の点検を学期に1回は実施し、管理を徹底する。また、ICT環境のより一層の充実を目指す。	B			
読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。			B						

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策					
進路部	支援課	<ul style="list-style-type: none"> 支援が特に必要な生徒の修学保障と進路保障を図る。 就学・就労保障のための支援体制の構築を図る。 支援金、奨学金等の案内を通じて、生徒の進路の支援につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外での支援の連携を効果的に図る。必要に応じた家庭訪問の実施 高同推の進路担当者会の参加により生徒に還元できる情報収集 経済的支援制度の家庭の実情に応じた活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の修学困難な理由を早期に把握、分析してその課題解決のための手段を講じる。経済的・個別的な教育課題を抱えた生徒等の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。 就職・公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。また高進協、進保協、職安との連携を通じて適正な選考が行われるよう 就学・就労支援に取り組む。 日本学生支援機構をはじめとした奨学金の情報を伝え、進路保障のため保護者・生徒が活用しやすいよう理解を深めるための対応を行う。また支援金や給付金について事務室と連携して取り組み、生徒一人一人の教育環境等の把握に努め、支援につなげる。 	A			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の抱えている問題、配慮の必要な家庭の状況等の情報については中学校、地域との連携でよりよい修学保障・進路保障に活かす。また、校内で連携を深め、早目の対応に心がける。 就職・公務員希望者には個別の進路保障を行う。 適切な奨学金制度の活用、経済的に厳しい家庭の把握をし、家庭のニーズに応じた支援の工夫をする。 	
	学年	一学年	<ul style="list-style-type: none"> 出席率 授業出席率 99.5% 課外出席率 98.5% 家庭学習時間 1日平均120分 1月進研模試 英国数偏差値 50以上の生徒 120人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事（自立と協働を学ぶ体験活動）を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。 	A	B		<ul style="list-style-type: none"> 南高生としてなすべき凡事（南高スタンダード）の更なる徹底 学校行事、学校生活を通して、3年次に学校を牽引していけるリーダーを育成する 自ら課題を見だし、方策を考え、解決していく経験を繰り返し積み重ねる。 進路目標達成のためのプロセスを明確にする
				<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立と基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。 習熟度別授業等を実施し、生徒の実態に応じた「分かる授業」を展開する。 	B			
<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据えた進路目標の設定・進路選択 人権意識の高揚 				<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。 教育活動全般を通じて人権意識の高揚につとめる。 	B	A			
二学年		<ul style="list-style-type: none"> 出席率 授業出席率 99.0% 課外出席率 98.0% 家庭学習時間 1日平均140分 1月進研模試 英国数偏差値 50以上の生徒 100人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守、出席率向上に取り組み、基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせる。 	A	B			
			<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立と基礎学力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> チャイムからチャイムまでの授業の徹底と学習環境の整備により授業規律の確立を図る。 習熟度別授業による生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。 	B				
			<ul style="list-style-type: none"> 進研模試における数値目標のクリア 将来を見据えた進路目標の設定 人権意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。 進路指導部と連携し適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。各学期に進路面談を行い適切な進路選択と進路目標の早期実現を図る。 学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。 	B	A			
部	三学年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習(1日)160分 出席率目標99.0% 国公立大学80人以上 (A0・推薦50人以上) (一般合格30人以上) センター受験80% (うち二次受験65%) 四年制大進学率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標達成を目指した教育活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談を適宜実施すると共に、キャリア教育課と連携を密にし、生徒一人一人の進路目標実現のため、学年が協力して全力を尽くす。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立(安易な遅刻・欠席の防止、忘れ物をさせない) 家庭学習時間を増やすための働きかけ(ライフレポートの積極的な活用) 特進クラスのレベルアップ(評価・課題の検討) 		
			<ul style="list-style-type: none"> 小倉南高校の新たな歴史の構築 様々な場面における他学年との連携の強化 小倉南高校生の自覚と人権意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーを中心とした組織作りを心がけ、体育大会や定期野球大会等の行事を成功させ、小倉南高校の新たな歴史を築いていく。 行事での連携はもとより、行事を経験した先輩から後輩へ話をする機会を増やすなど、伝統を継承していく。 最上級生として校訓「自主・創造・親愛」の精神を自覚させると同時に、他者への思いやりを育み、卒業後社会で通用する人権意識を養う。 	A			B	
			<ul style="list-style-type: none"> 4技能をバランスよく身につけた英語力の伸長 自国文化を再認識し異文化を理解する態度の育成 国際社会においてたくましく生き、活躍できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 必修科目だけでなく専門科目授業においては更に、実践的な活動を多く取り入れた授業展開を心がけ、英語運用能力の伸長を図る。 英検や GTEC、TOEIC などの資格試験受検を奨励し、合格者数増加を英語運用力向上の原動力とする。 大学での研修、JICAでの国際理解研修、海外ホームステイの参加、校内行事等、英語コースとしての特色ある教育活動を展開する。 英語コースの活動が発表できる場を設ける。また、コースの活動についての広報を校外で行う。 他校の英語科・英語コース等の優れた実践を学ぶために、教員が積極的に学校訪問を行う。 	B	B			
英語コース		<ul style="list-style-type: none"> 英検準2級→2年次までに全員取得 英検2級→卒業までに7割合格 GTEC(3年次) GRADE 5 7割以上 国公立合格者 6割以上 		<ul style="list-style-type: none"> 必修科目だけでなく専門科目授業においては更に、実践的な活動を多く取り入れた授業展開を心がけ、英語運用能力の伸長を図る。 英検や GTEC、TOEIC などの資格試験受検を奨励し、合格者数増加を英語運用力向上の原動力とする。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は専門科目授業をうまく活用し、3教科型だけでなく全体に実践型の授業が展開できた。コース最終学年となる2年生も3年の事例を参考にしながら継続して、コース生全体の英語運用能力向上に努める。資格試験に対する意識は高いが、合格に結びつける指導を行う。授業内での発表は適宜行っているが、コース生以外にも彼らの発表を見せる機会をできたなら設けたい。学校訪問は今年度は実施できなかったが、その場合は情報収集に努める。 		
				<ul style="list-style-type: none"> 大学での研修、JICAでの国際理解研修、海外ホームステイの参加、校内行事等、英語コースとしての特色ある教育活動を展開する。 英語コースの活動が発表できる場を設ける。また、コースの活動についての広報を校外で行う。 他校の英語科・英語コース等の優れた実践を学ぶために、教員が積極的に学校訪問を行う。 	B			B	
					C				